

	長崎大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:380） 大学院工学研究科（M:200 D:15）
沿 革	昭和41（1966）年 長崎大学工学部設置 昭和51（1976）年 大学院工学研究科修士課程設置 昭和63（1988）年 大学院海洋生産科学研究科博士課程設置 平成12（2000）年 大学院工学研究科、大学院海洋生産科学研究科、大学 院水産学研究科を改組し大学院生産科学研究科博士前 期・後期課程設置 平成23（2011）年 大学院生産科学研究科を改組し、大学院工学研究科、 大学院水産・環境科学総合研究科を設置
設置目的等	<p>昭和41年、長崎県の経済界、市長会、教育界等、地元の強い要望を背景に、工学部が設置された。</p> <p>昭和51年に、広い視野に立って精深な学識を授け、専門分野における研究能力又は高度な専門性を要する職業等に必要の高度な能力を養うことを目的に工学研究科を設置した。</p> <p>昭和63年に、工学と水産学の融合により海洋を場とする総合的・学際的分野の教育・研究を行い、新しい知識と研究方法を身に付けた人材を養成することを目的に海洋生産科学研究科博士課程を設置した。</p> <p>平成12年に、広範な生産の場において複数の学問分野を組織的、総合的に結合した学際的・総合的分野の教育研究を推進し、優れた人材を養成することを目的に工学研究科、海洋生産科学研究科及び水産学研究科を統合して、生産科学研究科が設置された。</p> <p>平成23年に工学分野において、学部及び博士前期課程を通じた6年一貫的教育により一層の教育研究の高度化を推進し、高度専門技術者を養成することを目的に、生産科学研究科を改組し、工学研究科が設置された。加えて、少数精鋭で国際的に卓越した研究者を養成することを目的に、多分野の教員が総力を挙げて教育する5年一貫制博士課程が新たに設置された。</p>
強みや特色、 社会的な役割	長崎大学においては、「アジアの鼓動響く街長崎で、知と心と工学センスを育み、未来を拓く科学技術を創造することによって、社会の持続的発展に貢献する」との理念のもと、グローバル化に対応した教

育研究、社会貢献に取り組んでおり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 自然と共生する人類社会の持続的発展に貢献するエンジニアの育成のため、学部・大学院の6年間を通じた一貫性のある教育に基づいて、工学の分野横断的な基礎知識を有し専門的・学際的知識ならびに実践的能力を備えた高度な技術者等を育成する機能を充実する。博士後期課程においては、創造的・先導的研究を推進できる人材育成の機能を充実する。また、多分野の教員が総力を挙げて教育する5年一貫制博士課程においては、次世代エネルギーの創成及びその高度利用等の特色ある領域で、国際的に卓越した研究能力を有する人材育成の役割を果たす。
- 安全・安心教育とものづくり教育を融合した実践的能力育成及び日中韓の大学間連携による水環境技術者育成等の特色ある教育を進めてきた実績を生かし、実践性及び国際的通用性を踏まえた教育改革の継続により学部・大学院教育の改善・充実を図り、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する。
- 構造・地震・維持管理、合成化学、電子・電気材料科学、情報科学分野等の高い研究実績を生かし、プロジェクトをベースとした組織的な連携により、社会インフラストラクチャーの遠隔診断技術、グリーンエネルギーの創成とその利用技術、次世代の蓄電材料や磁性材料等の先端物質科学研究、次世代コンピュータ関連技術の開発をはじめとするイノベーションの創成に繋がる工学の諸分野の研究を推進する。
- ケニアのアクアヘルス人材育成事業をはじめ、ミャンマーの高等教育支援事業、キャンパス・アジア中核拠点支援による水環境技術者育成事業等工学分野における国際貢献を推進する。
- 医工連携による高齢者見守り支援、地域企業との包括連携支援等による長崎県や地元団体への技術協力や研究員の受け入れ等の実績を生かし、地域貢献を推進する。
- 大学院への社会人受け入れ促進や観光ナガサキを支える“道守”養成ユニットに代表される地域技術者向け講習会等を積極的に展開し、地域産業界の高度化・活性化に資する。